令和８年度　厚生常任委員会　行政視察報告書

視　察　日　時	令和８年７月７日(火)午後１時30分から午後３時00分		
視　察　先	愛知県犬山市	人口	70,818人　32,533世帯 （令和８年５月31日現在）
		面積	74.90㎢
担当職員等	経済環境部　観光課		
視　察　内　容	オーバーツーリズムについて		
視　察　目　的	橿原市における飛鳥・藤原の宮都の世界遺産登録を見据え、今後国内外からの観光客の増加が見込まれる。城下町において先駆的に観光振興に取り組み、来訪者数増加に伴う混雑や住民生活への影響（オーバーツーリズム）に直面してきた犬山市の対応策を学び、本市における観光施策及び住民との共存策の参考とする。		
調　査　概　要	来訪者数増加の要因として、 ①都市計画道路の見直しや電線類地中化・道路美装化、景観阻害建物の除却、空き店舗の活用等のハード整備事業 ②名古屋鉄道とのキャンペーン ③芸能人（観光特使）とのタイアップ事業 ④SNS等によるお客様自身の発信（バズり）の４点が挙げられる。特に城下町では幕末期の道路形状を活かした都市計画道路の見直しを行い、電柱の地中化・道路美装化・建造物の修理修景等を進めたことで、江戸時代の街並みを活かした魅力的な城下町景観が形成された。 　一方、来訪者増加に伴い ①交通渋滞 ②混雑（⇔賑わい） ③ゴミのポイ捨てや住居への立ち入り等、住民生活への影響が課題となっている。 対応として、公営駐車場の整備・繁忙期の駐車料金見直し（道路混雑緩和の効果検証)、土日を中心とした警備員の配置（業務終了時の美化活動も兼務)、木曽川河川空間の活用や国と連携した「かわまちづくり計画」による回遊性向上・混雑の分散化等に取り組んでいる。なお、バス等の二重価格制度については現時点で検討していないとのことであった。 　城下町には商店街組織のような事業者連携組織がなかったことから令和５年７月より市・商工会議所・観光協会・まちづくり会社の４者で「SDGs観光まちづくり会議」を月１回開催し、防災ワークショップや交流会等を通じて事業者間の連携強化を図っている。また、観光客向けのマナー啓発ウェブページを開設し、住民との共		

令和８年度　厚生常任委員会　行政視察報告書

	存に向けた発信も行っている。年２回、市長を筆頭に城下町地区の住民との懇談会を開催して意見・要望を聞く場を設けるとともに、観光課のみならず防災交通・環境・土木・都市計画等の関係課が横断的に対応する庁内体制を構築している。 日帰り観光客が多い犬山市では、宿泊率の向上が観光施策の鍵と位置づけ、鵜飼や大相撲名古屋場所等と連携した宿泊プランの造成、ロングラン花火（10日間開催）や竹あかりライトアップ等のナイトコンテンツの充実に取り組んでいる。また、「ふるさとイノベーションコンテスト」を通じて生まれた旅行特化型SNSアプリ「New Travel」により、市内全域を動画ガイドブック化して周遊性を高める取組を実施しており、動画投稿本数は当初目標100本に対し2,064本と大きく上回る実績を上げている
所　　感	犬山城下町の取組は、単発の観光施策ではなく、都市計画道路の見直しという都市基盤整備の段階から一貫して「住みやすさ」と「観光地としての魅力」の両立を図ってきた点が印象的であった。 橿原市においても藤原京跡等の世界遺産登録を見据える中で、来訪者が集中してから対策を講じるのではなく、混雑が本格化する前の段階から駐車場・回遊動線・トイレ等の受入環境整備を計画的に進めることの重要性を改めて認識した。 特に、住民懇談会の定期開催や町内会への小学校駐車場開放、警備員による美化活動など、住民の理解と協力を得るための地道な取組が、観光客増加が続く中でも住民との軋轢を最小限に抑えている点は本市にとっても参考になる。一方で、警備費用の増大や事業者間連携組織の未形成など、犬山市自身も継続的な課題を抱えており、対策には終わりがないことも実感した。 本市は日帰り客が中心となる可能性が高く、犬山市が重視する「宿泊率向上」の視点や、SNS 発信・動画コンテンツを活用した周遊促進の手法は、藤原京跡周辺の魅力発信においても応用可能と考える。今後、庁内関係課が横断的に対応できる体制づくりや、住民・事業者・行政の三者が定期的に意見交換できる場の設置についても、本市での導入を検討していきたい。